

質的研究をめぐる 10 のキークエスト

サンデロウスキー論文に学ぶ

本書は質的研究方法について、サンデロウスキー先生が発表してきた研究論文の中から 10 編を厳選している。サンデロウスキー先生が書かれた著書の訳本ではなく、既に発表された学術論文を、訳者である谷津先生が選び、再構成して本の形式に仕立てたものである。内容は論文を執筆する際の質的研究を高めるための 10 の Key Question から成り立っている。

- Key Question1 良い結果を導く質的分析のポイントは？
(質的分析とは何か？そして、どのように始めるのか？)
- Key Question2 質的研究で数を扱ってはいけないの？
(本物の質的研究者は数を数えない？質的研究における数の使用)
- Key Question3 質的研究における適切なサンプルサイズとは？
(質的研究におけるサンプルサイズ)
- Key Question4 結局のところ質的研究は一般化を目指せないの？
(結局のところ、質的研究は一般化を目指せないの？)
- Key Question5 質的研究と時間はどう関係する？
(時間と質的研究)
- Key Question6 逐語録を作成するとき、研究者が取り組む課題とは？
(逐語録を作成について)
- Key Question7 生データをどのように引用する。
(質的研究における引用)
- Key Question8 質的研究とはどういうもの？
(質的記述はどうなったか？)
- Key Question9 質的研究にまつわる誤解とは？
(名前がどうしましたか？質的記述再考)
- Key Question10 質的研究に理論は必要？
(素顔の論文。質的研究における理論の使用と装い)

Key Question 1 「良い結果を導く質的分析のポイントは？」の回答として著者は、質的データの「分析」と「解釈」の違いを意識して進めることが、よい結果を導き出す鍵であると述べている。また、質的分析のポイントとして、サイエンスとアートの 2 つの側面があると述べており、研究成果が科学的に通用するものとして認められる為の体系化され

たアプローチを重視しながらも、創造性や想像力といった遊びの要素も大切である。つまりどんなに優れたソフトウェアが開発されようとも、研究者の出番がなくなることはなく、社会学者のミルズが「知的な職人芸」とも言うべき深い洞察力や着想の技能を磨かなければならず、このことからサイエンスとアートの二つの側面を持つといった点については納得できる。また、Key Question3「質的研究における適切なサンプルサイズ」についての著者の回答は、質的研究における適切なサンプルサイズはケース志向の質的分析を可能にし、かつ経験をそのまま本質まで理解する結果をもたらすのに必要かつ十分な大きさと書かれている。本文中の研究におけるサンプリングの美的な特徴は「スモール・イズ・ビューテフル」と書かれているが、一般的にはサンプルサイズが小さいと研究結果の信頼性を損ねてしまうので注意する必要がある。大きすぎることなく、小さすぎることなく、と書かれているが、やや抽象的な様にも感じる。

Key Question10の「質的研究に理論は必要？」についての著者の回答は、質的研究には理論は必要である。質的研究において、理論は多くの機能を持っていると述べている。データ分析における理論、結果の再現における理論の重要性については議論を重ねる必要がある。しかし研究者が研究として行うものには理論と根拠が必要であり、質的研究においても理論は必要である。本書はそれぞれの項目についてわかりやすく解説が加えられており、質的研究のクオリティを高める為のヒントが満載である。

★本書が紹介されている他のサイト情報

- ① <http://medicalfinder.jp/doi/pdf/10.11477/mf.1663102703>
(北素子先生による簡単な書評)
- ② <http://www.igaku-shoin.co.jp/prd/tachiyomi/01895/index.html#page=1>
(出版元の医学書院による本書 p19-23, p41 の文章)

(文責：福岡大学スポーツ健康科学研究科博士課程前期1年、松尾賢)